

問 26 男女共同参画社会の実現に向け、県が実施すべき事業

男女共同参画社会の実現のため、県はどのような事業を実施すればいいと思いますか。御自由にお書きください。

主な意見

男性・10代

- ・男女ともに平等なことを目指す取り組み。

女性・10代

- ・素直な小学生のうちに、育児や家事についてよく学ぶべき。学ぶ場を増やすべき。大人になってから、父親になってからでは遅い。父親にする子どもの抱き方などの研修を子どもや結婚する前の人でもみんなにするべき。

男性・20代

- ・男性が一方的に主張する世論をなくし、女性が政権をとることで男女格差問題や女性に対する政策を執り行うことが出来ると思う。
- ・保育園を増やす、保育士を増やす待遇の改善。
- ・一人一人が女性らしさにこだわりすぎないようにする意識が必要だと思う。そのためには、多種多様な生き方に、相応した制度の見直しが不可欠だと感じる。

女性・20代

- ・子育てや介護中でも働きやすく。
- ・男性の育児休暇取得をしやすくするための企業向けのセミナー等の充実。
- ・仕事と両立できるよう保育サービス等の充実。子育てが落ち着き、出産前と同じ会社に復職しやすい環境にする←（復職雇用制度のある会社が優遇される等）
- ・みんなが働きたい環境作り。能力のある社員を増やすために休みを多く、短期間集中型の会社作り。
- ・時短勤務、在宅勤務制度の充実、介護サービスの料金の改定、サービス内容の見直し。(介護職員の増員)
- ・職場で役割がつくのは男性ばかりで、有能な人がいても女性ではという理由で上にはいけない職場なので、法を新しくついたり、立ち入り検査などしてほしい。
- ・子どもを預けられる施設づくり。
- ・女性管理職についての意見等をアンケートして、企業が女性に求める能力を理解し、セミナーなどを実施してみるのがいいと思います。
- ・結局は、個々、社会の意識改革が大切になってくると思うので、互いの理解を深めたり、コミュニケーションがとれる場を用意すると良いのでは。

男性・30代

- ・所得格差をなくし、所得を増やす取組を行ってほしい。夫婦が共働きするのは、片方だけでは生活がやっていけないから。片方が働き、もう片方が家事・育児を行う。どちらも両方するのは、負担感が増すだけである。現状どちらも中途半端な家庭が多いと感じる。
- ・各種サービスの充実（特に保育）
- ・無能な管理職が誕生し、組織が停滞する。管理職の数値目標は不要。
- ・情報の発信。
- ・議員に男性が多いので、男2、女2のように人数配分をするべき。定員割れしたらその分、男・女で補欠当選させるなど。
- ・子どもがいても働きやすいように制度を充実させる。

- ・男も女も意識改革できる事案。考えが変わらなければ、男も女も年寄り子どもも、何も続かない。
- ・女性によるDV（暴言が主）、男性によるDV（暴力）が多いことを認識してほしい。男性が悪いと思われがちだが、耐えきれず暴力による行動を起こす男性も多い。男女共に原因があり、その原因を取り除かないと減らすことも、なくすこともできない。子どもの教育の段階から理解者を育てる事業に尽力してほしい。
- ・イクメンという言葉をもっと浸透してほしい。
- ・セミナー及び勉強会。
- ・男女双方の長時間労働の改善を推進する事業。男性が育児に積極的に参加しやすくなる啓発活動を推進する事業。
- ・実現のための予算確保。

女性・30代

- ・正規職員から離れてしまった女性が、再び正規職員に就くことは少なく、子どもを持つと「お子さんが熱を出された場合はどうされますか！」と面接者に必ず言われ、子どもを優先すると言えば、冷たい表情。他の制度を利用するといえば「時間は何時まで働けるか！」としばしば追い込ませる心理戦。女性ばかりに負担がある前提での面接の現状。民間企業への働きかけをお願いしたい。
- ・保育や児童クラブ等の子どもが安心していられる場所を充実させてほしい。
- ・男性の育休取得率が圧倒的に低い(日本全体の問題でもある)現状、取りたくても取れない人もいると思うので、会社側から半強制的に1週間～でも取らせる制度を実施する。少しでも育児を体験することで大変さを理解できると思う。
- ・女性の役職と賃金の整備。
- ・女性が社会に出やすい環境づくり、家族や子どもに負担をなるべくかけず短時間労働ができる場、家事能力や前職で得たものを発揮出来る場の提供。
- ・保育園などの時間外(夜間)の保育の充実を。(残業ができる環境を整備してほしい。)
- ・働きたい女性たちを集めることで、何らかの講演会や、女性の今後の活躍の場を増やしていくようなキッカケを作っていくことができれば、もっと共感できる人が出てくると思う。
- ・問題共有・解決のための啓発事業。(男性や年少者、若年世代へ向けて)
- ・「小学校に入るときに学童保育に入れたい」という話をよく聞く。保育園は充実してきたので、小学生の預かりにも力を入れてほしい。また、制度はあっても利用が進まない育休などについても、中小企業にも取り組みやすいように、取得率が上がればインセンティブが出るなど、男性に何かしらのメリットのある方法を考えてほしい。
- ・企業に、働きかけて欲しい。
- ・正規雇用の充実と残業時間の減少及び賃金の上昇。それを可能にするための景気対策。
- ・保育士や介護士の給与が安すぎるので、なり手がいない。
- ・まず、現実的に女性は仕事に出るにあたり、子どもに教育機関やその他保育所等に行ってもらわなければならない、男性はそういう"何か"をしないと仕事が出来ないということがないと思います。共働き時代に女性が子どもがいるから仕事に出にくいという現状が、最終的に良くないと思っている。

男性・40代

- ・人口を増やすこと。
- ・セクハラ・パワハラ等に対する加罰的取扱い、常勤講師の教諭化、非正規職員の正規化、臨時職員の無期雇用化、外国人の通訳や行政への起用。
- ・PR。県条例の制定。
- ・保育園、小学校、中学校、高校の無償化及び医療費の無償化。とにかく子どもの教育や医療を充実してほしい。
- ・県から変えていく。
- ・いろいろな発言をできる場を増やしていけばいいと思う。

- ・親の介護で復職する方は50代となるので再就職支援を行う。採用した企業へ行政が給付金を出す。出産・子育てから早く復職するため保育料も無償化する。※特に複数の児童がいる世代に限る等。教員増員を行い児童クラブの時間延長。(18:00~20:00等)
- ・議員定数について女性人数の最低人数を設定する。
- ・働き方改革を充実するための工夫した事業。
- ・本音の話をすること。女性自身が本当に上を目指す人がどの程度いるのだろうか。結婚したら仕事を辞めたい女性の割合とか、子育て中は働きたくない割合とか、地域活動なんかしたくない女性の割合とかの話が最初にあるべき。
- ・啓発セミナー事業で団体の長とかでなく、個々に向けて情報発信する。
- ・具体的な方法の周知。
- ・女性が職場で働きやすくするための企業等への勉強会の開催や支援など。
- ・男女が共に働きやすい環境にする。育児休暇を取りやすい環境にする。結婚後やめなくてもいい環境にする。
- ・公衆トイレを増やす。
- ・考え方をフラットにする。今までにとらわれない。知事の具体的なアピール。
- ・保育支援。
- ・男性と(親子)子どものワークショップ(料理教室などのイベント、キャンプ)。子育て女性の就職支援。(企業への助成など)
- ・保育施設や介護施設の充実とそれらを利用しやすくする制度の充実。
- ・集会等のサポート。
- ・県民の生活水準を上げる。フルで働かないと生活が苦しい。教育費は全国水準が必要なので、子どもを育てるのが難しい。
- ・三世同居への支援。伝統を伝え「男らしさ」「女らしさ」を教える事業。
- ・まず、県民に意見を聞いてみては。普段声をあげない方々の意見をひき出すことが重要。
- ・ICTやテレワークをどこでもできる通信網の整備。

女性・40代

- ・「男女共同参画社会」についてもっと分かりやすく、だれでも知っている状態にする必要がある。
- ・一番偏見を持っている世代やグループ層に向けて、参加しやすいワークショップを行い家事や育児、介護を体験してもらったりすること。これらを続けていく中で、その良さや辛さを相談したりおしゃべりし合ったりできる、いわゆるはき出し口のような場所を作り、平日でも利用しやすくすること。小さい子どもの頃から男女関係なく、家事のお手伝いをし、育児にも介護にも役立てられるように習慣づける取り組みをすること。又はそれを支援すること。
- ・中高年男性の家庭での自立。個々人の意識改革なので具体的に県が事業の実施をして効果があるのか不明。
- ・女性が出産すると仕事をやめなければいけない現実。今は共働きでないと生活していけない現実。子どもを預かってもらえる保育園が少ないので、その施設の充実を。
- ・男女の役割の垣根をなくす活動や事業を実施。女性は体力的な面では多少男性に及ばないかもしれないが男性と同等にできる場所は多くあるし、特に仕事をしていると女性の方が有能なことも多い。違いを理解し、企業や(年配のお客さんなどで)世の中での垣根をとっていける何かを行ってほしい。仕事上、偏見を感じる人が多いので。
- ・現状のままでいいと思う。
- ・長時間労働(残業・持ち帰り仕事を含む)の是正。
- ・男性が家庭での役割を高められることをしてほしい。
- ・長時間労働、休日出勤、サービス残業等是正する働き方改革。(形ではなく実質的改善)
- ・男女共同参画について、個人の考えの差がまだ大きいので、学校や地域での啓蒙活動を行う等して、男女格差があることが異常であるという認識を持たせる活動をして欲しい。
- ・税金の軽減。

- ・活動内容等周知する。(イベントや参加型の交流会)年齢に関係なく興味をもてるイベント。愛媛マラソンのボランティアも中島のトライアスロンのように前夜祭等をし、お互いを知る。
- ・育児休暇の積極的な取得を支援する事業。
- ・子ども達への教育。未来を作るのは、大人ではないから。
- ・男性が育児休暇等を取りやすい環境をつくる。
- ・収入を得るための仕事を続けられない何らかのイベント(例えば介護、子育てなど)があるときに、職場以外の中立的な相談窓口。経験者の話を聞ける交流の場。
- ・もっと生活に身近な所などでの講演、講習や中学生、高校生などにも、わかりやすく接して下さる機会があるといいと思います。
- ・働き方の改革。保育・介護の充実。教育。
- ・結婚して仕事を辞め、子育ても落ち着いた世代の女性に、もう一度社会や、コミュニティに参加できる場を作っていただき、その情報を積極的に広めていただきたいです。
- ・介護支援サービスの充実、介護が必要な家族がいる場合、働きたくても十分に働けない、限られたサービスしかなく、結局は家族内の女性が背負わされてしまう。
- ・あまり変化を求めない県民性。どんな策でも時間はかかる。個人での責任について、意識改革からできる場があればいいと思う。
- ・法律や環境を整えても人間自身が変わらなければ、何も変わらない。学校等の教育の現場から人間を教育してほしい。
- ・事業企画を行う立場の女性を増やす。
- ・働きやすい職場づくり。
- ・地域、部落での行事を充実させるようなこと。昔は山登りとかキャンプなどした。
- ・福祉従事者、保育、障がい者支援者への給与、待遇の充実を図って欲しい。老人介護施設での自己負担の軽減など。家庭における男女の家事や生活、介護の負担格差をなくすよう。うちでは全て女がするものだと思っているよう。夫は「男はしなくて(家事、育児、介護)よい」と育てられてきている。啓発運動を行って家庭内格差がなくなるよう、働きかけて欲しい。
- ・具体的には思いつかないが、男女ともに子育てや介護をしながら仕事をしている人達を支援する事業に力を入れるべきではないか。

男性・50代

- ・犯罪を社会から根絶すること。
- ・自治体として住民の声に耳を傾ける。
- ・出産で休む女性へのフォロー。
- ・幼児の頃から男女差別をなくす教育をする。
- ・県民への広報活動。
- ・政治家にも勉強してもらおう。
- ・家計を支えている者が介護理由で離職をした時の、減税及び補助制度を他県より先に行う。
- ・具体的にはわからない。そもそも愛媛県は他県に比べてどうなのか。不足しているものは何かを分析、評価し、良いものは導入する。
- ・愛媛が現在どのような事業を展開しているのかよくわかってないので何とも。
- ・育児と介護を支援する制度を充実して欲しい。

女性・50代

- ・共働きの家庭は仕事と家事を担っており、税負担も男女格差はない。しかし、専業主婦(夫)やパートの家庭は税の軽減があるため、働けるのに働こうとしない。県単独でできる共働き世帯の助成等ができればよい。
- ・場所が職場でも地域でも、女性の意見を尊重して行動にしていく(してみる)ことが大事だと思う。行動しなければ結果が出ないため。結果が出てからでも改善策は見つかるものだと思う。

- ・国に対して、配偶者控除などの税制面における抜本的改革を行う。働き方の一つの形態として、子どもを連れて仕事ができる機会を増やす。
- ・基本的には参画するかしないかは個人及び個々の家庭事情もあるので自由であるべき。ただ今後、世帯数が激減していくと予想されるので、参画しようと思った時に実現できるよう社会の意識の改革と子育てや介護サービスの更なる支援（設備と金銭的）が望ましいと思う。
- ・男性は女性に対して、又は女性は男性に対して尊重できるよう相手を認めることが大事。上手く男女共同参画社会が実現している自治体や企業を紹介する広報誌などを発刊。人の意識を変えられる何かを行う。（定期的に開催）
- ・有給休暇があっても使えなく、勝手に会社が有給休暇扱いにする時もあり、必要な時に有給休暇を使えるようにしっかりと法律を作してほしい。
- ・職場、学校などで勉強会実施。（DVDや講師派遣）
- ・男女共同参画についてテーマを決めて研修を行う事業の実施。例えば、男女一般の方の話し合いがもてるように研修等をいろいろな企業や町内などで行う事業の実施。県の方が中心となって行ってくださるとよい。
- ・高齢社会の中、介護することも多くなる。介護をしなくてすむ、健康を保つことのできる公園、運動指導又子どもなら児童クラブ、子ども食堂など充実。女性や高齢者に働く場所を提供する。
- ・私たち（50代）の年代と、少し下の世代（30代）はもはや考え方がすごく違うと日々感じています。（旗当番は今はお父さんの姿もあるし、子どもをだっこして買い物など）家事、育児に参加している男の方は抵抗なく増加していると思います。こういう男の子を育てるために、子どもの頃からの教育はすごく大事なかなと思います。
- ・女性起業家への支援。
- ・これからの子育て支援、働く女性支援、保育園の充実、働きやすい場所を。
- ・学校、自治会、行政への男女共同参画社会についての教育推進。
- ・色々なサークル活動を増やしてほしい。
- ・男女参加型のイベント推進事業を希望します。
- ・実施していることをわかりやすく県民全員に伝わるようにしてほしい。
- ・男女共同参画をもっとPRすべき。家庭でも社会でも男性上位をなくすための事業。
- ・女性が活躍するための能力の研修会。
- ・生活応援。
- ・双子出産後、3年間休んで仕事に復帰した際、1時間時短勤務を希望しましたが、結局(もちろん賞与もなくなります)パート扱いになり通勤手当もなくなり、その他、福利厚生の方でも、悪くなりました。(仕事量、内容は変わらないため、以前より忙しくなりました)これが今の企業の現状です。働きやすいと感じていません。時短での正社員制度ができるように県が働きかけてくだされば、助かる女性は多いです。
- ・男女間の格差改善として数字の上だけで%(率)を上げる努力をしても有能でない(中身のない)女性を選んでいては本末転倒ではないか。愛媛県には有能な女性がまだ少なすぎると思う。名ばかりの役職のポストを与えて勘違いさせてはいけない。
- ・男女ともに育児休暇、介護休暇の充実。有休を積極的にとれる体制。(社会的にも、会社的にも)メディアでどんどん広報する。
- ・私は、男女は平等だが、男女は対等ではないと考えます。(今のところ出産は女性しかできません)
- ・子どもの長期休暇(夏休み、冬休み、春休み)時の時短勤務。
- ・家事や育児サービスを気軽に利用できるようなシステム。
- ・男女間での給料の差をなくす。扶養家族について考えていく。

男性・60代

- ・育児環境整備。
- ・民間企業で働く労働者に対し、職場の現状を聞き、企業経営者の経営理念の根本的な見直し、指導する。公務員と比較すると民間人の格差は大きい。
- ・誰でも参加できる専門の部署を作してほしいです。

- ・啓発活動も大切であるが、補助金や給付金等お金を使った施策を考える。
- ・勤務地（会社内）すぐ近くに子どもの施設を提供する。（安く）
- ・まずは地域から始めよ。地域の町内会長等の役職は、半分は女性とするようにする。これを義務化すれば、そのうちに議員等まで波及していくことになる。
- ・子どもを預けられる環境を、また介護支援も。
- ・性差を大切にする教育が必要です。
- ・第三セクターでの事業等から具体的実施を。
- ・県職員の各部署のコミュニケーションを多く行なう。
- ・各分野で男女不平等、格差をなくしていく。
- ・女性の家事・育児で立派な社会人を育てることは、パートに出ることより高く評価されるべきであり、子どもが22歳になるまでの配偶者控除を増額する。
- ・社会福祉については根本的に男性より女性の方が向いていると感じるので、(事業主も含めて)女性中心の職場環境が望ましいと思う。
- ・なるべく税金を使わないようにして下さい。
- ・生涯学習に参加しているが、もっと実践的学習を実施してほしい。また訓練校などの枠を拡大し、職業人を増やし、県の財政を豊かにさせる。
- ・男女共同参画社会実現のために多く発信すること。
- ・まずは、実情を知るため、より多くの分野の県民の声を集めること。意見を聞く。次に、分析→一般人の各々の代表者と会合し→理念論を知り現実とのギャップを話し合うこと、→トップダウンをやめて、実現可能なことから、始める→次々とステップアップすべきと思う。
- ・何よりも男女が結婚をして、次代を担う子ども達が必要である。日本の国が成り立たなくなる。そういった事業を実施していただきたい。
- ・男女共に本当の仕事に対する平等性。
- ・男女差別をなくすこと。仕事年齢も60才65才とか指定しないで、個人個人の働けるまでにしてほしい。
- ・女性がパートやアルバイトをしている比率が高い。正規雇用や最低賃金 upなどで、豊かな生活ができるようにしてほしい。

女性・60代

- ・子育てしやすい環境を作ってほしい。
- ・男性も女性も双方の意見を平等に聞いて反映させる。（さまざまな年代の）
- ・行政に女性を増やす。
- ・家事、育児、介護について、学校教育の家庭科授業の課題を多くする。
- ・働き方や休暇の選択肢を増やす。
- ・子ども達が学校、部活、塾と忙しく、家族とのコミュニケーション不足のようなので、親の仕事時間（残業）などをなくし、家で過ごす時間を多くとれるようになればいい。
- ・事業ではないのですが、将来を担ってくれる子どもたち(小学生～大学生)にこのようなアンケートで意見をもらうのもいいのではと思います。
- ・定年退職・子育て終了の高齢者が地域の中で若い世代の人の手伝いができる、講習やネットワークづくり。
- ・私が現在働いている小さな工場では男女の差はありません。まず人数が最小限で働いています、出来る人がしています。男も女もほとんど関係ありません。
- ・男女平等といっても外で働きたくない人、外で働きたい人いろいろです。外で働く場合やはり女性はいろいろな制約があり、諦めている人も多いと思います。特に若い人は子どもが小さいとかの制約があり、才能のある人が埋もれています。そういう人が活躍の出来る場があればいいと思います。
- ・若者が地元で働ける場所、企業誘致を。
- ・会社や事業所へ出向き、特に男性への理解を促し、アピールしているのでしょうか。
- ・男性が仕事をやめ、介護をしています。国民年金なので毎月赤字です。家において、何か収入につながるような、仕事はないものかと。
- ・これからますます女性が社会に出て働いていかなければならない時代ですが、子どもをもつ若い人からは

なかなか保育園に入れにくいということを聞きます。幼稚園の保育時間を延長するなど、保育園に入りやすくするなど、出来ないものでしょうか。

- ・男性の育児休暇取得への理解。保育所の待機児童をなくすこと。
- ・現在、私達の地域では、秋に、三世代交流というのがあります。誰もが、気軽に、楽しく参加できる行事です。私も、女性団体の一員として、子守の役目のお手伝いをしています。次回も、参加したい、という気持ちになれば成功だと思います。お菓子・お茶が、もらえます。
- ・保育、介護の利便性を良くして頂きたい。公的年金の充実。
- ・力のある男性にはそれに合った仕事。優しい女性には子育て・育児。協力して住み良い国、町、をお願いします。
- ・男性の意識改革(特に50才以上の人)→地域の活動で特に感じる女性も積極的に参加する。参加できるようなサポート。
- ・人生100年時代と言ってますが雇用も延長(意欲のある人)する。
- ・はっきり具体的な行政であって欲しい。
- ・保育園や幼稚園の休みの時(夏休み、冬休み等)、また学校が終わり親が職場から帰宅するまでの時間、幼児期の子どもや小学校低学年の子どもを安心して預かってもらえる公の施設が増えるよう希望します。

男性・70代以上

- ・有能な女性の発掘、教育。
- ・真の男女平等にするために法的、社会習慣の変革へリーダーシップをとる。
- ・「民主主義」とは何か、今一度原点に戻って考え、教育する必要がある。「民主主義」と日本社会の現状についての討論会を開催して欲しい。
- ・よくやっているとありますが、男でも女でも適材適所の仕事が出来ると社会になればと思います。
- ・問題点が分からないと対策は立てられない。「男女共同参画」について実態はどうか。意識は、目標は、実態を深く分析・検討して対策を考え実行するべきと考えます。事業先行では税金のムダ使いと思います。
- ・もっとPRして意識の高揚を行うべき。
- ・子育て環境の充実。
- ・県民への意識を高める、宣伝・教育など。女性が働きやすいように保育・学童保育など施設を増やす。
- ・安心して子どもを預けることの出来る施設や介護施設の充実が必要と思われる。
- ・女性が活躍できる職場の充実を図ること。
- ・共同作業意識の徹底を図るセミナー。モデル自治体やモデル企業の育成。
- ・地域への行政指導の徹底指導。
- ・男女共同参画実現のための法令や受皿としてのセンターなどの整備はされているのであるから、あとは女性へのインセンティブを待つしかないのではないかと。(男性の理解は進んでいる)
- ・県としては、総合的な立場で市町をトップダウンではなく、ボトムアップに仕向ける必要がある。
- ・女性が活躍する場は、地域社会の中でも確実に広まっている。地域行政の中でも更なる支援をお願いしたい。
- ・行事での協力依頼を女性に積極的に行う。
- ・行政(特に防災、復興)の事業の実施をしていただきたい。
- ・立案と実行が円滑になるよう、事業を細かく分担出来るようにすれば良いかと思う。

女性・70代以上

- ・防災区長等地域活動に積極的に女性の参画を推進すること。女性だからと言う考え方をなくすこと。
- ・お父さんの参加が少ないと思います。
- ・定年過ぎても、元気であれば職場に出るのが健康にも生活にも良いこと。経験を若者のために使ってみてはどうかと思う。
- ・男女共に定時で帰宅できる状況をつくっていく。

- ・働き方改革。
- ・男性の家事・育児に対する意識改革は力をもって進めてほしい。
- ・今はまだ男女平等とは言えない現状なので、スーパーの店長とか福祉など家庭生活に関わる仕事に、女性をもっと活躍させて欲しい。
- ・保守性がどちらかというと強い県民性だと思うので、県民の意識改革を促すような場を設ける。(例えば講演会等)
- ・私は高齢者です。子どもの学費の負担がなかったらお母さんたちも働くのが緩やかになると思うのです。今の世の中です。時間ある分どんどん社会に出て仕事、イベント、エトセトラ参加して知識を広めてほしい。
- ・女性が結婚して子育て、介護に安心できるようにしてほしい。今の働くお母さんは大変。
- ・海外の視察。
- ・この件あまり知らない人が多いような気がします。もっと広く知られるようにすれば良いと思います。
- ・“男女共同参画社会”アピールしすぎ。現在でも、優れている人はそれなりに男女の差なく活躍出来ていると思う。
- ・女性のサークルを教育などの機会を多く催してほしい。
- ・片寄った職種からの人材登用ではなく、広く情報収集した上での人選等に努めてほしい。教職者≠人材ではないことを知るべき。
- ・各分野でリーダーとなる方々の研修会といったものを企画して、名前だけでないその方なら、安心して任せられるといったような、リーダーを養成してほしい。
- ・地域での社会教育、コミュニケーション。
- ・自治会等も新しい役員は？ここに住んで60年、世の中ずいぶん変わりましたが・・・

性別・年齢無回答

- ・まだまだ満足ではないかもしれませんが、母子家庭に対する支援はたくさん聞きますが、母子家庭以上に父子家庭を不憫に思うことがあります。母子同様父子家庭も生活しやすい愛媛県になることを望んでいます。
- ・女性が働き続けられるように、子育て支援・介護支援を充実してほしい。